

特色ある学校

21世紀を担う工芸・デザイン分野の人材育成を目指して

1. はじめに

本校は、明治40年に京橋区築地に、東京府立工芸学校として、金属細工科、精密機械科の二科からなる学校として、開校した。その後、明治41年に家具製作科、大正7年に印刷科、昭和24年に図案科が設置された。現在では、学科名をアートクラフト科、マシクラフト科、インテリア科、グラフィックアーツ科及びデザイン科と学科名を変更している。全日制は、各学科1学級で、合計15学級であり、定時制は、デザイン科を除く4学科、16学級である。現在の校舎は、地上9階・地下2階、エレベーター4基を設置する設備で、JR水道橋駅から徒歩1分もかからない場所にあり、都立高校の中でも一番の駅チカ高校である。平成29年には、創立110周年式典を行った。

2. 本校の特色

本校は、都内唯一の工芸系高校であり、今まで1万4千人を超える卒業生を輩出している。卒業生は、日本の工芸・デザインの各分野で活躍しているものが多く、重要無形文化財保持者（いわゆる人間国宝）4名、新幹線N700系のデ

東京都立工芸高等学校 統括校長 前田 平作

ザイナー、アートディレクター、漫画家など数多くの著名人を輩出している。

(1) アートクラフト科

開校当時は、金属細工科の名称であり、この名称からもわかるように、金属加工の伝統技法を学び、現代感覚にあふれた美しい工芸作品を生み出している。授業では、デッサン・製図・構成の基本を確実に身につけ、手仕事を基本とするジュエリー、食器などの実用品から工芸品・彫刻まで幅広く製作する。施設・設備では、彫金室、鋳造室、鍛金室やコンピュータ室、製図室が地下1階と8階・9階にある。生徒は、実習時の移動はエレベーターを使用するが、短い休み時間には他科の生徒も利用するため、計画的な行動を心がけている。



図1 アートクラフト科

(2) マシクラフト科

開校当時は、精密機械科の名称であり、アー

トクラフト科と同様に本校で最も歴史のある学科の一つである。いわゆる工業高校の機械科との違いは、自分のイメージしたものを形にすることに重きを置いていることである。つまり、全員が同じ図面によるものづくりではなく、個人の個性が大いに反映される世界で一つの作品をめざすものづくりである。使用する機械類は、切削加工機、鋳造、溶接等であるが、教員は、生徒のものづくりに対する情熱にこたえるため、指導方法の工夫や素材の特性研究など試行錯誤の日々である。科の特徴としては、課題研究で、テーマを1つ決定し、班別でものづくりをすすめ、最後にクラスで1つの作品を完成させている。作品は、重量感もあり、学校見学会の参加者の目を引くものに仕上がっている。



図2 オリンピックメダル (マシンクラフト科)



図3 インテリア科

(3) インテリア科

前身は、家具製作科であり、本学科が追究する最も重要なテーマは、快適な住居空間を問うことである。住居空間とは、人が快適さを求めるリビングルームや店舗、車の中など多様であ

り、内部の家具や照明、カーテン、カーペットなどの配置も考えなければならない。授業では、基礎的なデッサンやスケッチ、色彩構成などの造形をはじめ、完成予想図の描き方、模型のつくり方、木材の加工・組み立て方、室内空間のコーディネートを学ぶ。また、空間を企画・製作するために必要な幅広い分野の知識、アイデアを表現するための技能も身につける。

(4) グラフィックアーツ科

前身は、印刷科であり、本学科では、視覚的な表現に特化した知識と技術を習得する。習得する技能の三本柱として、「組版編集」「写真」「印刷」があり、写真や文章を美しく分かりやすく、正しく伝えることに創意工夫を凝らしている。一般にグラフィックアーツで取り扱うメディアは、ポスター、新聞、雑誌、パンフレット、パッケージなど紙に印刷するものであるが、本科は電子媒体やマルチメディアにも対応し、ウェブサイト、映像、アニメーションなどの制作にも取り組んでいる。施設・設備は、タイポグラフィ実習室、スタジオ実習室、4色オフセット印刷機を設置しているペーパープレス実習室や工芸印刷実習室がある。



図4 グラフィックアーツ科

(5) デザイン科

前身は、図案科であり、本校では一番新しい学科となっている。本学科では、製品のかたちや素材を考えることから、その製品のロゴやマーク、パッケージ、商品広告をデザインし、テレビCMや店頭でのセールスプロモーションを

企画するなど、学習内容は多岐なものになっている。学習内容は、デザイン活動に関する基本的な知識として、発想力・創造力のスキルアップ、構成・配色などの美的造形力の鍛錬、多様な表現技術の習得、提案力・発表力の強化などであり、表現や素材について幅広く学んでいる。本科の目指すことは、より豊かな生活のため、「ものづくり」を通して社会貢献し活躍できるよう、やわらかな発想、確かな技術、果敢な行動力をもった人間性豊かなデザイナーの育成である。



図5 デザイン科

3. 特色ある教育活動

(1) ものづくり人材育成プログラムの活用

東京都教育委員会が、毎年6校の工業高校に対して、ものづくり人材育成プログラム事業を実施し、本校も伝統工芸「彫金技術・ワックス彫刻蠟型技法」の分野で報償費等の支援を受けている。具体的には、本校アートクラフト科卒



図6 ものづくり人材育成プログラム

業生で、人間国宝でもある桂 盛仁氏に夏季休業期間中の8日間講師をお願いしている。生徒も教員も一流の彫金技術を直接見て、直接指導を受ける機会となっている。中学生にとって、募集説明会等でも、注目度が高い取組である。

(2) 工芸高校夢コンペの取組

今年度で13回を数える工芸高校夢コンペは、学校PRの手立ての一つで、創造力と想像力をハガキに表現したものを、中学生から募集を行っている。ハガキという決められたスペースで、いかにイラストや写真で自己表現をするかが、工夫の見せ所である。今年度は、589通の応募があり、最優秀賞、優秀賞が表彰された。すべての作品を工芸祭で展示した。

(3) 地域連携

本校では、近隣ホテルが主催する「アクア・アート」に毎年有志で作品を応募している。アクア・アートとは、本物の生物を使い自然界の仕組み（食物連鎖）をそのまま再現させた水槽で、空間デザイン・デコレーションを表現する。水槽で金魚などが生き続ける環境（害のない塗料やオブジェの使用）に配慮することが求められるので、環境を意識する機会となっている。



図7 アクア・アートの作品

(4) ホームページのデザイン

デザインの基本設計の提案は、委託業者から助言を受けている。費用は、同窓会より支援を受けているため、都立高校標準のホームページのレイアウトではない。閲覧対象者は、中学生

やその保護者だけではなく、デザイン・工芸等を広く職業にしている方々にも発信しているという意識がある。そのため、生徒作品のクオリティーは高いものになっている。国際化を意識して、ホームページに英語版の学校案内を掲載している。

科	卒業生数	就職				進学		未定・その他
		学校幹旋	自家業	公務員	縁故・その他	大学・短大	専門学校等	
アートクラフト科	23(14)	4(2)	0	0	1(1)	5(2)	8(6)	5(3)
マシンクラフト科	13(2)	3(0)	0	0	0	6(2)	2(0)	2(0)
インテリア科	16(10)	4(1)	0	0	0	5(4)	7(5)	0
グラフィックアーツ科	22(14)	6(4)	0	0	1(1)	5(3)	4(2)	6(4)
合計	74(40)	17(7)	0	0	2(2)	21(11)	21(13)	13(7)

()は女子の内数

図9 平成29年度 定時制進路状況

者が3月下旬の4日間、定時制は、6月と11月に3年生の希望者が参加する。この機会をとらえ、職業の意義を理解させている。

4. 進路指導の取組

全日制では、図8に示すように、毎年約8割の生徒が東京藝術大学や東京学芸大学をはじめ、美術系大学・専門学校に進学する。本学で学んだ内容をさらに専門的に深め、将来の職業のイメージを強くもっている生徒が多数いる。進路指導の重点事項として、高大連携事業がある。協定を結んだ美術系大学から、夏季休業期間に実施するデッサン講習会では、大学からの講師派遣や、大学のオープンキャンパスの体験授業（教材費は自己負担）に優先的に参加している。この講習会には、定時制生徒も多く参加しており、それぞれ希望する進路を実現している。また、各専門学科で実施するデッサン講習会には、卒業生（大学生）も指導補助者として参加し、キャンパスライフや受験相談に対応している。

また、工芸高校で学んだ内容が生かせる就職先として、独立行政法人 造幣局やバキュームモールド工業、LIXIL、産経新聞制作所、世界堂などがある。

インターンシップは、全日制は2年生の希望

5. これまでの取組の成果と課題

毎年、生徒・保護者、教職員に対して、学校評価アンケートを実施している。生徒・保護者の学校満足度は、ほぼ100%である。最近では、進学者の割合が80%程度あることや、大学入学共通テストを見据えて、英語の4技能を確実に身につけられること等が、保護者の期待となっている。生徒は、高校生活で思う存分にものづくりがしたいため、本校を選択し、入学した。専門学科の課題を最優先で取り組む傾向があり、普通教科の学習が後回しとなりがちである。普通科の教員は、工芸高校だからという理由で、専門学科の教員に遠慮している現状がある。今後は、普通教科の学力向上の手立てとして、職員会議のない水曜日や夏季休業期間の一定期間を、受験対策に特化した取組に割り振ることを検討している。

科	卒業生数	就職	進学			その他・進学予定者数
			大学	短大・準大学	専門学校	
アートクラフト科	32(28)	4(4)	12(9)	2(2)	13(12)	1(1)
マシンクラフト科	36(24)	1(1)	13(7)	2(1)	16(13)	4(3)
インテリア科	34(25)	5(4)	21(14)	0(0)	5(5)	3(2)
グラフィックアーツ科	36(34)	5(5)	20(18)	1(1)	8(8)	2(2)
デザイン科	33(30)	3(2)	17(15)	1(1)	10(9)	2(2)
合計	171(141)	18(16)	83(63)	6(5)	52(47)	12(10)

()は女子の内数

図8 平成29年度 全日制進路状況

6. おわりに

全国的に、工業科教員が不足している現状がある。本校は其中でも、工芸系の工業高校であり、美術・工芸免許取得者の人材確保がたいへん困難な状況である。本校としては、工芸系教員養成にも視点を置いた、新しい高大連携事業を模索していきたい。